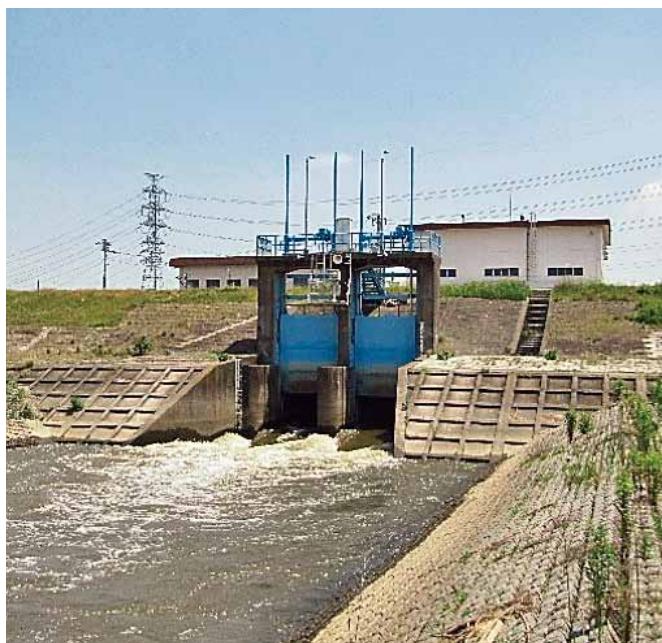


排水機場に依存する立田輪中地区の経緯

(立田輪中悪水土地改良区)

立田輪中悪水土地改良区は、明治17年に設立された立田輪中連合水利土功会を前々身とする農業インフラ管理団体です。管理している主な施設は、地区(旧八開村西部、旧立田村の大部分)の中心を藤ヶ瀬町から森川町の南北約10kmにわたって流れる鵜戸川と、木曾川堤防の脇に建つ2つの排水機場(立田排水機場、立田輪中第2排水機場)です。地区内は平坦で、勾配はほとんどありません。鵜戸川の水は、流下しているというよりむしろ排水機場のポンプに吸われて動いています。また地盤沈下が激しく、下流に繋がる筏川の水が遡上してしまうため、昭和25年に初の排水機場を建設した際、現弥富市との境界付近に常時閉切の水門を付帯工事で設置して以来、地区の排水はすべて排水機場に依存しています。現在、写真に写る2つの排水機場以外にこの地区の排水を担うインフラはありません。稼働中の排水機場設備も老朽化が進んで補修費がかさむため、現在は愛知県による更新事業が進められています。湛水被害が少しでも減らせるよう、ご協力をお願いします。



排水機場の名前	排水ポンプの運転状況 令和2年4月から令和3年3月までの1年間(下段は前年度比)			
	運転日数	運転時間数	排水費用	内電気代
立田排水機場	214日 (-18日)	2,123時間 (+29時間)	12,883,046円 (-554,041円)	6,132,005円 (-396,946円)
立田輪中第2排水機場	215日 (-9日)	1,961時間 (+115時間)	14,117,861円 (-218,410円)	10,506,907円 (-574,430円)

排水機場は水を吸い込む機能上たくさんのゴミが流れてきます。処分には多くの費用が掛かりますので、水路へのゴミ捨てはやめてください。

問 土木課 ☎(55)7125